

3. **生活ルールを守る目的**は、メシアに似た者とされていくことである

(1) 信者は、**メシアに似た者とされていく**

- ① 神は、信者をあらかじめ選び、**御子のかたちと同じ姿になる**ようにあらかじめ定めておられる。

ロマ 8:29 神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿に  
あらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子とな  
るためです。

- ② 信者は、メシアの内にもあった思いと**同じ思いを持つ**者となる。

ピリピ 2:5 (直訳) この思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。これは、  
イエス・キリストの内にもあった思いである。

- ③ 信者は、**メシアの足跡に従う**者である。

I ペテ 2:20~21 罪を犯して打ちたたかれ、それを耐え忍んでも、何の誉れ  
になるでしょう。しかし、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、そ  
れは神の御前に喜ばれることです。このためにこそ、あなたがたは召されまし  
た。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、  
あなたがたに模範を残された。

- ④ 信者は、**この世において、メシアと同じようである。**

I ヨハ 4:17 こうして、愛が私たちにあって全うされました。ですから、私  
たちはさばきの日に確信を持つことができます。この世において、私たちがキ  
リストと同じようであるからです。

- 「愛が私たちにあって全うされた」・・・12節「私たちが互いに愛し合う  
なら、神は私たちのうちにとどまり、神の愛が私たちのうちに全うされ  
るのです」とあるように、信者が互いに愛し合うことが出発点となる。信  
者が互いに愛し合うことは、イエスの「新しい命令」(ヨハネ 13:34)で  
ある。12節では、私たちが互いに愛し合うなら、神の愛が私たちのうち

に全うされると約束されている。

- 「この世において、私たちがキリストと同じようである」・・・キリストと同じようであるとは、何を意味するか。この世において私たちがキリストと同じように恐れないということである。
  - 18 節に、「愛には恐れがありません」とあるように、キリストは恐れなかった。そして、しばしば、弟子にも「恐れるな」と教えられた。
  - この世において恐れないとは、この世から憎まれること、迫害されること、場合によっては殉教をも、恐れないということ。
  - それは、イエスの「新しい命令」(ヨハネ 13:34) においても言われている。ヨハネ 13:34 「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」・・・「わたしがあなたがたを愛したように」である。それはどのような愛し方か、「友のためにいのちを捨てる」という愛し方である。
  - ヨハネ 15:12~14 でイエスは次のように命じられた。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友です。」
  - イエスから「新しい命令」を受けた使徒たちは、実際に、殉教していった。彼らの殉教は、兄弟姉妹のために、そしてイエスのためにいのちを捨てる行為であった。
- さばきの日に確信を持つことができる・・・信者が受ける裁きがある。それに対して不安をもつことなく、確信を持つことができるということ
  - さばきの日とは、信者がキリストの前に立って信者としての働きを評価される時のこと。キリストの裁きの座(Ⅱコリ 5:10)を指す。
  - 18 節に「恐れには罰が伴い」とあるように、恐れる信者は、キリストの裁きの座で報奨を失う。
  - 私たちが神を愛し、兄弟姉妹を愛するなら、私たちの内に神の愛が全うされ、愛は恐れを締め出す。これにより、私たちはキリストの裁きの座に立つことについて、確信を持つことができる。
- 順番に注意しよう。信者が自分の決心や勇気で「何も恐れないぞ」と頑張

ることではない。

- 信者たちが互いに愛し合うこと、私たちが最初になすべきことは、これである。
- そうすると、神の愛が私たちのうちに全うされる。私たちが神の愛を全うするのではない。
- そうすると、愛によって、私たちのうちから恐れが締め出される。
- こうして、私たちはイエスと同じように恐れを持たない者とされる。

(2) 信者は神とともに働く中で、すなわちキリストを証しする中で、メシアに似た者とされていく。その働きは、その信者個人の人間的な働きではない。それは、神の恵みによるものである。

- ① 信者は、教会を建て上げる働きをする。その働きでは、聖霊から与えられた賜物を用いる。信者個人の力によるのではない。

ロマ 12：3～8 私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います。思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい。一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとりは互いに器官なのです。私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に応じて預言し、奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい。

- ② パウロが異邦人への使徒とされたことは、神から与えられた恵みである

ロマ 15：15～16 ただ、あなたがたにもう一度思い起こしてもらうために、私は所々かなり大胆に書きました。私は、神が与えてくださった恵みのゆえに、異邦人のためにキリスト・イエスに仕える者となったからです。私は神の福音をもって、祭司の務めを果たしています。それは異邦人が、聖霊によって聖なるものとされた、神に喜ばれるささげ物となるためです。

- ③ 信者が神のことばと知識において豊かな者とされ、キリストについて証しすることができるのは、キリストにあって与えられた神の恵みである

I コリ 1:4~6 私は、キリスト・イエスにあってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも私の神に感謝しています。あなたがたはすべての点で、あらゆることばとあらゆる知識において、キリストにあって豊かな者とされました。キリストについての証しが、あなたがたの中で確かなものとなったからです。

- ④ パウロが使徒とされたこと、そして他の使徒よりも多く働いたのも、神の恵みであった

I コリ 15:9~10 私は使徒の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対する神の恵みは無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのですが。

- ⑤ 使徒パウロと同労者テモテは、その宣教活動において、神の恵みによって行動してきた。それは、人間的な知恵によらず、神から来る純真さと誠実さをもって行動することであった。

II コリ 1:12 私たちが誇りとすること、私たちの良心が証ししていることは、私たちがこの世において、特にあなたがたに対して、神から来る純真さと誠実さをもって、肉的な知恵によらず、神の恵みによって行動してきたということです。

- ⑥ 使徒パウロと同労者テモテは、自分たちの働きのすべてを、自分たちのためではなく、教会の兄弟姉妹のために行った。そしてその働きは、自分たちの人間的な知恵や力を見せるのではなく、神の恵みを証しするものであった。神の恵みが多くの人々に及ぶと、そこには感謝が満ち溢れ、神の栄光が現れる

II コリ 4:15 すべてのことは、あなたがたのためであり、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためなのです。